

馬主だより

第 8 3 号

平成29年1月27日
発行 (一社)ばんえい競馬
馬主協会事務局

☆高い目標、理想像、あるべき姿に向かって永続的成長を！！

▼皆様お揃いで幸多き新年を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。▼今年のお正月開催は天候にも恵まれ穏やかな競馬日和でした。三が日は帰省の家族連れや観光客で帯広競馬場は連日大賑わい。馬券を握りしめ応援しているお客様も数多く見られ、久しぶりで盛況感ある競馬場になりました。▼発売成績も好調でお正月開催 5 日間の 1 日平均発売額が1億 7 千万円を超え、幸先のよい1年のスタートを切ることが出来ました。この勢いで今年も頑張ります！！▼なかなか先が見通せない混沌とした時代ですが、グローバル化が進む中で日本経済は今後どこに向かうのでしょうか？▼最近とみに“不確実性”という言葉を目にしますが、何も不確実性が高いのは今に始まったことではありません。どのような状況にあっても、常にリスク回避に備えながら前を向いてそれを乗り越えて行かなければならない。これまで以上に堅実で慎重な判断が求められるのは確実です。▼帯広市では、平成 29 年度からの新たな「ばんえい競馬運営ビジョン」の策定に取り組んでおり、更に高い目標を示し、未来の理想像を描くとともにばんえい競馬のあるべき姿に向かって関係者が最大限の努力を積み重ねることが、永続的な成長を可能にするのです。

平成 2 8 年度 ばんえい競馬 発売成績 (累計)

開催 1 2 5 日間

帯広市ばんえい振興室資料提供

平成 29 年 1 月 23 日終了時

区 分	発 売 金 額							
	平成28年度			平成27年度		対 比		
	日 数	発売額	予算額	日 数	発売額	予算	前年	
帯広競馬場	125	1,106,405,600	1,094,881,100	125	1,217,218,000	101.05	90.90	
直 営 場 外	旭川北彩都	125	609,009,400	594,454,000	125	663,351,700	102.45	91.81
	ミトスポット北見	125	285,633,600	287,583,400	125	299,721,700	99.32	95.30
	ハロンス岩見沢	125	185,792,200	180,894,400	125	207,451,600	102.71	89.56
	ハロンス釧路	125	78,910,900	81,527,200	125	92,352,000	96.79	85.45
	ハロンス名寄	125	115,972,900	110,348,200	125	91,274,700	105.10	127.06
	アプスポット網走	125	45,330,900	45,678,800	125	72,253,800	99.24	62.74
	琴似駅前	125	120,091,600	117,460,300	125	124,022,500	102.24	96.83
イルムふかがわ	125	74,428,300	72,649,400	125	98,070,900	102.45	75.89	
電 投	オッズパーク	125	4,251,109,400	4,033,396,900	125	3,960,143,600	105.40	107.35
	OP(七重勝)	125	72,438,200	96,979,700	125	46,838,000	125.42	154.66
	OP(五重勝)	125	49,190,600		125	46,075,100		106.76
	競馬モール	125	3,765,748,600	3,538,797,900	125	3,145,183,400	106.41	119.73
	SPAT4	44	1,206,949,500	1,044,871,800	39	765,166,100	115.51	157.74
広域場間場外	—	1,146,024,900	1,085,844,200	—	1,095,112,900	105.54	104.65	
場外・電投計	—	12,006,631,000	11,290,486,200	—	10,707,018,000	106.34	112.14	
合 計		13,113,036,600	12,385,367,300		11,924,236,000	105.88	109.97	
1日平均	125	104,904,293	99,082,938	125	95,393,888	105.88	109.97	

平成 28 年度該当開催(ばんえい競馬第 1 回 1 日目～第 22 回 3 日目まで 125 日間)

平成 27 年度該当開催(ばんえい競馬第 1 回 1 日目～第 22 回 2 日目まで 125 日間)

会議等の様子

○ 平成 28 年度第 4 回執行役員会、第 5 回理事会を開催！！ ～平成 29 年度主催者への陳情書(案)等審議～

平成 29 年 1 月 21 日(土)当協会事務局会議室に於いて、平成 28 年度第 4 回執行役員会を開催しました。

競走馬弔慰金の査定は、対象馬 1 頭について審議の結果、原案のとおり弔慰金の給付を決定致しました。続いて平成 29 年度診療業務サポート事業の予算計画書について審議、診療所の意向を踏まえたうえで予算額を積算し、今後、新年度の補助金額とサポート体制等について帯広市と協議を進めることとなりました。

また、来年度、平成 29 年度から平成 33 年度までの当協会の中期五ヶ年経営計画策定にあたり、これまで実施して来た五年間の事業内容を各事業それぞれ、財務諸表や評価シートに基づき、現状と課題を検証。加えて、今後の方向性や見直し改善(案)等についても検討いたしました。これら総合的な見地から事業ごと評価基準に基づく判定を行い、理事会に各事業の方向性を示すこととなりました。

【第 4 回執行役員会議事】

- (1) 競走馬弔慰金の査定について
- (2) 平成 29 年度診療業務サポート事業収支予算(案)
- (3) 中期五ヶ年経営計画のための事業評価について
- (4) 平成 28 年度第 5 回理事会議案について
- (5) その他

【馬弔慰金支給対象馬】 1 頭 700,000 円

内 訳

(単位;円)

馬 名	年齢	馬 主	給付別	馬弔慰金
ソウヤエンゼル	6	大石 正和	業務中	700,000

執行役員会終了後、午後からは、第 5 回理事会を開催致しました。

議事は、報告事項が第 1 号から第 3 号まで、「第 20 回お正月開催終了時の発売成績、報償費の支給状況等」について報告致しました。

続いて協議案では、次年度のばんえい競馬に関する主催者への陳情、意見等について協議を行いました。好調に推移する発売額を背景として報償費の支給基準アップや補助事業に係る継続的な支援、競走馬の防疫体制の徹底について。また、きゅう務員不足解消への対応等、以下の内容を盛り込んだ陳情書(案)について取り纏めを行いました。

なお、陳情は、後日、執行役員において、主催者である帯広市へ陳情書を提出し、概要を説明することとなりました。

その他、平成 28 年度のブロック懇談会の日程調整を行い、本年、2 月中旬から 3 月中旬までの間で、5 ブロックにおいて懇談会を開催することを決定しました。

近日中には、各ブロック懇談会のご案内を差し上げます。皆様、お誘い合わせのうえ、是非とも多数のご出席をお待ち申し上げます。

【第5回理事会議事】

日程1	報告第1号	平成28年度内国産農用種雄馬購買馬決定について
	報告第2号	2017年お正月イベント「新春初夢抽選会」実施
日程2	報告第3号	発売成績及び報償費の支給状況等について
日程3	協議案第1号	次年度ばんえい競馬に関する意見、陳情、提言等について
日程4	協議案第2号	平成28年度ブロック懇談会の日程調整及び懇談事項について
日程5	その他	① 競走馬用慰金給付額の決定について

〔平成29年度帯広市ばんえい競馬開催に関する陳情項目〕

【陳情事項】

1. 報償費支給基準について
2. 補助事業について
3. 入きゅうに係る防疫体制等の徹底について

【意見、要望】

1. 競馬場の施設整備について
2. きゅう務員不足解消のための方策について
3. ネット発売の推進について
4. 公正確保への継続的取り組みについて

情報・ご案内

○ ばんえい競馬7重勝単勝式馬券で1588万馬券 的中2票！！

～史上最高配当記録を大幅更新する～

平成28年12月24日(土)ばんえい競馬において、後半7レースの1着馬を全て当てる7重勝単勝式馬券で、1588万3590円の高配当が出ました。的中は2票で、ばんえい競馬史上最高配当となり、過去最高配当を更新することになりました。これまでの最高額は2010年1月31日、5レースの1着を当てる5重勝単勝式で1口が的中した、1022万2930円でした。

7重勝式の馬券は、地方競馬のインターネットサイト「オッズパーク」の会員のみが投票できます。今回、これほどの高配当になったのは、11月7日から19日連続で的中がなく、キャリーオーバーが発生していたのが要因です。“100円が1588万円に”正に夢の馬券です。

○ ばんえい競馬1日の発売額が過去最高に 初の2億円台へ！！

～年末最終日に快挙 “ヤングチャンピオンシップ”4600万円売り上げる～

年末最後の開催となる平成28年12月29日(木)の1日の発売額が、2億34万5900円となり、帯広市単独開催後、1日当たりの発売最高額だった1億9658万4600円(2008年1月2日)を超える好成績を記録しました。

同日は、重賞競走の「第18回ヤングチャンピオンシップ」が行われ、当該競走1レースで4634万8500円を発売した事が大きな要因となりました。ばんえい十勝では1日の発売額が初の2億円台の快挙となり、年内最終日を飾りました。

○ 1月2日の開催で“発売額また更新”！！

～新年早々 史上最高2億1589万円を発売する！！～

新年初の重賞競走「第39回帯広記念」が行われた1月2日(祝月)の売り上げが、

2億1589万300円となり、昨年12月29日に出たばかりの初の2億超えの史上最高額(2億34万5900円)を早くも更新しました。

「帯広記念」は全国の地方競馬で馬券を発売、同重賞競走(例年1月2日に開催)を行う日が、その年度の発売最高額が出やすいとされています。

○ **ばんえい十勝“新春お正月開催” 好調発進！！**

～5日間で見事8億6829万円もの発売成績を挙げる！！～

ばんえい十勝の今年度お正月開催は、元旦から5日までの連続開催で、この5日間の売り上げは、8億6829万8300円となり、5日間連続開催の過去3年間では最高額となった。この内、2日と4日は2億円台で、1日平均の発売額も1億7366万円と好調で、2017年新たな一年の門出を飾る幸先の良いスタートを切ることが出来ました。

お正月開催の発売額は、14年度が5億8661万円、15年度が7億4642万1800円、今年度は8億6829万8300円と年々増加している。

○ **平成28年度日本馬事協会内国産農用種雄馬 購買馬決定！！**

～キタノタイショウ号 引退後は種雄馬として釧路へ～

平成29年1月11日(水)帯広競馬場で、公益社団法人日本馬事協会が実施する平成28年度内国産農用種雄馬購買の最終検査を経て、購買候補馬となっていたキタノタイショウ号の購買が決定。また、同日、当該馬の馬主と日本馬事協会との間で売買契約が正式に締結されました。なお、配置先団体は、釧路農業組合連合会となります。

また、購買馬の引渡しについては、平成29年3月22日(水)帯広競馬場に於いて行われる予定です。

【平成28年度公益社団法人日本馬事協会購買選定馬】

購買馬名	年齢	クラス (万円未満)	馬主	配置先団体
キタノタイショウ	11	オープン	木下 英三	釧路農業協同組合連合会

○ **“NARグランプリ2016”表彰馬、表彰者決定！**

～ばんえい最優秀馬 フジダイビクトリー号受賞す！！～

地方競馬全国協会は、平成29年1月11日(火)、2016年に国内地方競馬で活躍した人馬を表彰する“NARグランプリ2016”の表彰馬、表彰者を決定致しました。

地方競馬年度代表馬に輝いたのは、さきたま杯(JpnⅡ)を制覇、かしわ記念(JpnⅠ)で2着など、ダートグレード戦線において高いレベルで結果を残してきたソルテ(牡6歳、大井競馬場所属・寺田新太郎きゆう舎)が選出されました。なお、同馬は“4歳以上最優秀牡馬”、“最優秀短距離馬”も併せて受賞しています。

騎手部門では、森泰斗(船橋)、武豊(JRA)らが特別賞を受賞。また、往年の名馬メイセイオペラ、イナリワンが特別表彰馬に選出されました。

“ばんえい最優秀馬”は、ばんえい最高峰のばんえい記念を制し、その後重賞の岩

見沢記念、北見記念も勝ったフジダイビクトリー(牡 8 歳、金山明彦きゆう舎)が受賞しました。おめでとうございます！！

<フジダイビクトリー号のプロフィール> ※2017年1月11日現在 生年月日：2008年3月17日(牡8歳) 血統：父 ウンカイ 母 シュクノハルヒメ(母父 ロングボーイ) 生産者：本寺 政則(北海道中川郡本別町) 馬主：(株)三上建設 厩舎：金山 明彦 きゆう舎 通算成績：168戦 30勝(うち重賞 8勝) 重賞勝鞍：2016年 ばんえい記念、岩見沢記念、北見記念	
---	--

レース情報

○ 重賞競走の結果

月日	重賞名	馬名	馬主	調教師
12月25日	第45回 ばんえいダービー	マルミゴウカイ	宮本 康弘	槻館 重人
12月29日	第18回 ヤングチャンピオンシップ	ホクショウムゲン	井内 昭夫	服部 義幸
1月2日	第39回 帯広記念	オレノココロ	大森 勝廣	槻館 重人
1月3日	第10回 天馬賞	センゴクエース	千石 貞子	槻館 重人
1月22日	第27回 ヒロインズカップ	アアモンドセブン	広瀬 豪	小林 長吉

優勝おめでとうございます！！

◆ 第45回ばんえいダービー (3歳オープン)

単勝2番人気のマルミゴウカイが優勝。ばんえい大賞典に続く重賞勝ちを収めて3歳二冠を達成し、この世代の頂点に君臨しました。

2歳時から素質の高さを示し、9月に戦線復帰後も安定したレースを見せているホクショウディープが1番人気。ばんえい大賞典馬で、菊花賞でも2着に食い込んだマルミゴウカイも差のないオッズで続き、一騎打ちの様相となりました。とはいえ、ばんえい菊花賞を制したツルイテンリュウも争覇圏内といった戦前評価。頂上決戦を制すのはどの馬か――。馬場水分2.3%のなか、決戦の火ぶたが切られました。

第1障害こそ各馬まとまって越えたものの、中間点が近づきにつれてホクショウディープが先行態勢。これをマルミゴウカイとツルイテンリュウが追いかけて、淀みない流れ。障害下にはツルイテンリュウ、ホクショウディープ、マルミゴウカイの順で到達し、三つどもえの展開で勝負どころを迎えました。

全馬が到達するのを待たず、ホクショウディープが登坂を開始。続いてマルミゴウカイ、ツルイテンリュウが動き、キタリュウキも仕掛けます。なかでも切れのある登坂を見せたのは

マルミゴウカイで、他馬に先んじて荷物を天板に曳き上げ、難関を突破しました。しかし、ホクショウディーブも差なくクリアし、ツルイテンリュウ、キタリュウキもこの一角。実績のある4頭が抜け出し、最後の我慢比べに駒を進めました。

先頭に行くマルミゴウカイの脚いろは軽快で、ホクショウディーブも同様の歩みを見せます。苦しくなったのはキタリュウキで、ツルイテンリュウも置かれ加減。徐々にホクショウディーブも苦しくなり、残り10メートルでの脚いろの差は歴然。マルミゴウカイはリズム良く歩き続け、結果7秒4差をつけて第45代ばんえいダービー馬に君臨しました。懸命に食い下がったホクショウディーブでしたが、最後は及ばず2着。激しくなった3着争いは、ツルイテンリュウが気力を振り絞って先着。キタリュウキが同タイムの4着となりました。

マルミゴウカイはこれで3歳三冠を1、2、1着。4歳馬が相手のはまなす賞でも2着に食い込んでおり、世代を代表する存在となりました。余力を感じさせたゴール前からも期待は高まるばかりで、今後の世代限定重賞はもちろん、年長馬相手の重賞でも好勝負できそうです。

ばんえい菊花賞3着のホクショウディーブが、一步前進して2着。これで復帰後は【2・2・4・0】と、抜群の安定感を見せています。着実に復調しているのも明らかで、今後も存在感を示してくれることでしょう。

ツルイテンリュウは最後の決め手勝負に屈した印象もありますが、キタリュウキの猛迫をしのぎ切ったあたりは実力の証明。馬場や展開次第で、チャンスが巡ってきそうです。

◆ 第18回ヤングチャンピオンシップ（2歳産駒特別選抜）

十勝産駒のホクショウムゲンが素質の高さを見せつけ優勝。1番人気ながら大敗したナナカマド賞の雪辱を果たしました。

1番人気に推されたのはデビューから【7・4・1・0】と抜群の安定感を誇っているジェイワン。青雲賞勝ち、ナナカマド賞2着と実績も申し分なく、初タイトル期待がかかりました。ただ、復調を示すホクショウムゲン、軌道に乗ってきたセンショウニシキも単勝ひと桁台。600キロ前後の重量に対応できるか、今後を占う意味でも重要な一戦がスタートしました。

水分量3.0%の馬場を勢いよく駆ける10頭。ミノルシャープ、ホクショウムゲンといった先行勢は中間点を過ぎてもノンストップで、そのまま第2障害下にたどり着きました。

ひと呼吸入れて、ミノルシャープ、トモエハイセイコー、ゴールデンフウジンが仕掛け、ジェイワン、ホクショウムゲンも差なく登坂を開始します。その中から先頭でクリアしたのはミノルシャープ。ジェイワンも抜群のかかりで突破し、一瞬ヒザをついたホクショウムゲンも即座に立て直して障害を下っていきました。以下センショウニシキ、カネサスペシャルも圏内で突破し、最後の平坦路を迎えました。

しかし、障害を越えてからの脚は、ホクショウムゲンが断然。一気に先頭に躍り出て、他馬を突き放しにかかります。いい脚で追ってくるのはカネサスペシャルで、残り10メートルで2番手まで進出します。しかし、そのころ先頭はゴール線上。ホクショウムゲンがそのまま押し切り、重賞初制覇を果たしました。カネサスペシャルが2着に入り、きわどくなった3着争いはジェイワンに軍配が上がりました。

抜群のスピードを見せたホクショウムゲン。デビューから7連勝をマークした素質を、この舞台で存分に発揮しました。多少スピード優先の馬場になった分、力の要る馬場への対応は未知数ですが、600キロを克服できたのは大きな収穫。今後も要注目1頭です。

◆ 第39回帯広記念（4歳以上オープン）

単勝4番人気のオレノココロが優勝。昨年に続く連覇を果たすとともに、重賞12勝目を挙げました。

10連続連対中と安定しているニュータカラコマが1番人気に推され、昨年のばんえい記

念馬フジダイビクトリーが差なく続き、3番人気にコウシュハウンカイ。高重量に加えて、馬場水分2.2%とやや重い馬場もあってか、昨年のばんえい記念の1~3着馬が上位人気に推されました。これにスピードで優るオレノココロやオイドンなどが、どう立ち向かうか。注目のゲートが切られました。

さすがに高重量戦とあって、道中はゆったりとしたペース。各馬とも横一線で、慎重に刻みます。大きな差はつかず、そのまま第2障害を迎えました。

じっくりとためたのち、動いたのはホクショウユウキ。それを見るかのように、サクラリュウ、ニュータカラコマ、コウシュハウンカイも仕掛けます。さらにキタノタイショウ、オレノココロも登坂を開始。それぞれ天板に脚をかけますが、さすがにこの重量。苦戦を強いられる馬が続出しました。それでも何とか荷物を曳き上げたのはサクラリュウ。ニュータカラコマとオレノココロもこれに続きます。少し水をあけられたものの、フジダイビクトリー、ホクショウユウキ、カインゲキも突破し、追撃態勢に入りました。

サクラリュウは障害後に後退。代わって先頭に立ったのはニュータカラコマでしたが、残り30メートルを切ったあたりでオレノココロがグイグイと脚を伸ばし、先頭に躍り出ます。食い下がろうとするニュータカラコマでしたが、残り20メートル標識の手前で脚を止めてしまいました。そうすると、ここからはオレノココロの独壇場。重量と馬場に苦しむ9頭を尻目に、次元の違う脚を繰り出します。しかも、その足色には余裕さえ見られるほど。ゆうゆうとゴールまで荷物を運びきり、見事に連覇を達成しました。

注目の2着争いはニュータカラコマとサクラリュウがしのぎを削り、残り5メートルでニュータカラコマが先行します。サクラリュウの脚は動かず、これで決着がついたかと思われました。しかし、そこへ障害8番手からトコトコトコ歩き続けてきたキタノタイショウが強襲。ゴール手前で脚を止めたニュータカラコマをかわし、2番手ゴールを果たしました。立て直したニュータカラコマが3着で、昨年のばんえいグランプリ以来、2度目の重賞挑戦だったサクラリュウが見せ場たっぷりの4着に食い込みました。

近況は今ひとつのレースが続いていたオレノココロでしたが、今回は圧倒的な力を見せつけました。障害でヒザを折らなければ、やはり力は一枚上。今後も障害さえ無難にこなせれば、タイトルを積み重ねることでしょう。ばんえい記念でも楽しみです。

驚いたのはキタノタイショウ。昨年2着の実績からすれば好勝負を演じて不思議ないですが、障害8番手から追い込んだ内容は強烈でした。今年の3月末での種牡馬入りが決定している同馬。シーズンエンドで有終の美を飾れるか注目です。

3着のニュータカラコマは重い馬場が響いた格好。それでも3着を死守できたのは状態の良さの表れでしょう。多少でも軽い馬場になれば、巻き返しが期待できそうです。

◆ 第10回天馬賞（5歳オープン）

単勝1.2倍の圧倒的な1番人気に推された**センゴクエース**が優勝。重賞9勝目を挙げ、世代最強の力を見せつけました。

年長馬相手でも互角以上のレースを見せるセンゴクエースが1.2倍。2番人気のシリウスが12.3倍、3番人気のキンメダルが12.8倍と、完全な1強ムードとなりました。勝ち方が焦点。そんな戦前予想のなか、馬場水分2.1%でスタートのときを迎えました。

前半は各馬が互いに出方をうかがい、横一線で推移。中間点を過ぎたあたりでシリウスがスッと先行態勢をとり、これを逃がすまじと、バウンティハンター、センゴクエースが追走。多少ばらけた状態で第2障害を迎えました。

全馬が到着する前にシリウスが障害に挑みますが、掛かりは今ひとつ。やや遅れてコウリキ、キンメダル、バウンティハンター、アサヒカツヒメが仕掛けますが、さらに遅れて登坂を開始したセンゴクエースが一気に登り切り、先頭で障害を突破しました。ただ、僅差でバウンティハンター、キンメダル、コウリキも続き、やや遅れてイノリノチカラも追撃態勢に入ります。

ただ、最後の平坦路はセンゴクエースの独壇場。残り 30 メートル標識の手前からギアが上がり、スルスルと抜け出します。2 番手に上がったキンメダルが懸命に食い下がりますが、脚いろの差は歴然。余裕さえ感じさせるレースぶりで、圧倒的人気に応えました。きわどくなった 2 着争いは、ゴール前でキンメダルの脚いろが鈍ったところへ、盛り返してきたコウリキが襲い掛かり、ゴール線上で逆転しました。

勝ったセンゴクエースは 4・5 歳混合のポプラ賞も含め、世代限定戦【17・0・0・1】。ほかにもビッグウエイトカップ制覇など、一線級を相手に互角以上の戦いを見せています。いずれはばんえいを背負う逸材。このレース名のように、天馬のごとく活躍してくれることを期待します。

2 着に食い込んだのはコウリキ。障害を下りたあたりで集中を欠くようなそぶりを見せましたが、残り 30 メートルを切ってから猛加速。最後にきっちり 2 着に上がったあたりは、地力の高さの証明でしょう。精神面の成長次第で、はまなす賞に続く重賞制覇も十分に可能です。

キンメダルは最後に失速しましたが、センゴクエースを負かしにいつての結果。3 着でも中身の濃いレース内容でした。いまだタイトルがないのは不運としか言いようがないですが、オープンでも好勝負を演じている近況からも、いずれは重賞での金メダルが期待できそうです。

◆ 第 27 回ヒロインズカップ（4 歳以上牝馬オープン）

単勝 3 番人気の**アアモンドセブン**が優勝。悲願の重賞初制覇を果たし、牝馬ナンバーワンの称号を手に入れました。

前走のばんえい十勝金杯こそ大敗を喫したナナノチカラですが、昨年このレースを制しているほか、レディースカップでも小差の 2 着に食い込んでいるように、牝馬同士なら力上位の存在。その実績を買われて 1 番人気に推されました。牝馬オープンを相手に互角の立ち回りを見せているセイコークインが続き、ここへ来て波に乗ってきた印象のアアモンドセブンが 3 番人気。ただ、5 番人気のタキニシサンデーまでが単勝ひと桁台で続き、混戦ムードでスタートのときを迎えました。

降り続く雪により、馬場水分は 3.1%まで上昇。各馬軽快に歩を進め、障害中間点を過ぎて強気に歩きます。ファイトガールを先頭に、全馬がノンストップで第 2 障害にたどり着きました。

ひと呼吸入れ、そのファイトガールが早くも登坂を開始。天板付近で脚が止まったものの、腰を入れなおして何とか障害を突破します。ただ、続いて仕掛けたセイコークイン、アアモンドセブンも差なく続き、勝負は最後の平坦路に持ち込まれました。

軽い馬場を味方に、懸命に逃げるファイトガールでしたが、それも残り 10 メートル付近まで。両サイドからこれをかわしたアアモンドセブンとセイコークインが激しいたたき合いを演じます。ゴール前で続いた競り合いでしたが、軍配はわずかにアアモンドセブン。これまで重賞で苦杯をなめてきた同馬が 1 分 32 秒 3 のスピード決着を制し、初のタイトルを手に入れました。立て直したファイトガールが 3 着で、1 番人気のナナノチカラは見せ場なく 8 着に敗れました。勝ったアアモンドセブンは黒ユリ賞、柏林賞とともに 2 着した実績がありますが、重賞は初勝利。ハンデ差もさほどない中で勝利したのは実力の証明でしょう。最後までスピードを維持して競り合いを制した内容もよく、牝馬相手でも好勝負が期待できそうです。

セイコークインはしまいの切れ勝負に屈した格好ですが、勝ち馬とは 10 キロのハンデ差があったのも確か。悲願のタイトルはお預けとなりましたが、またチャンスが巡ってくるに違いありません。

※ レース情報の内容につきましては、ばんえい競馬情報局より抜粋しています。